

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	うらら		
○保護者評価実施期間	～		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2025年1月7日		～ 2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・音楽療法の集団レッスン、個人レッスンを日々行なっている	・特に利用時間の長い長期休暇中においては、個別の支援に力を入れ、レッスンを行なっている。	・今後も、お子さんのスキルに合わせ、音楽療法のレッスンを行なっていく。
2	・職員会議等、職員間で話し合う機会をしっかりと作ることで、職員間のコミュニケーションを図りやすくし、共通理解、共通認識を持ち、療育が出来るようにしている。	・出勤しているスタッフが全員参加出来るよう、開始時間を工夫し、打ち合わせを行なっている。(日々の振り返りに関しては、支援終了後に行なうことが難しいので、翌日の支援開始前の打ち合わせで行なっている。)	・職員間のコミュニケーションを図るだけでなく、今後もいろんな研修に参加し、互いにブラッシュアップしていける場を設けていく
3	・日頃から連絡帳でのやりとりや、送迎時の申し送りの際、その日のお子さんの様子を丁寧に説明し、何か気になることがあれば、いつでもお声がけ頂けるような体制を整えている ・事業所内で、しっかりとモニタリングを行ない、面談の際のアセスメントに基づきながら作成した支援計画を、ご家族様に丁寧に説明し、了解を得た上で、支援を行なっている	・日々のやりとりだけでなく、お子さんに少しでも体調の変化が見られたりした際には、すぐご家庭に連絡をさせて頂き、対応を行なっている。 ・支援計画開始後のお子さんの状況などについても、ヒアリングを行なっている	・体調の変化などがあれば、連絡帳などでご連絡頂いたり、服薬状況等の変更があった際には、最新のお薬手帳や医師の指示書を確認させて頂くなど、お子さんの体調などを把握していく。 ・日々、支援状況について説明させて頂き、ご家族様の意向を確認した上で、支援を続けていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域との交流など、地域に開けた事業所運営が出来ていない	・契約時や年度初めには、お子さんが通園している保育園・幼稚園・認定こども園などには連絡を入れているが、そこから連携にはつながっていない	・地域の町内会などの力を借りることが出来ないかなど、出来ることを検討し、改善していきたい
2	・第三者委員会などの外部の機関を運営に取り入れることが出来ていない	・外部機関とつながる体制作りが難しい	・市町村などに問い合わせをし、助言を頂くなどして取り組みをしていきたい
3	・保護者会など家族が交流出来る場を、コロナ禍以来出来ていない	・保護者間での交流を実現するには、事前準備やマンパワーが必要である	・安全に保護者交流が出来る体制作りを考えていきたい